

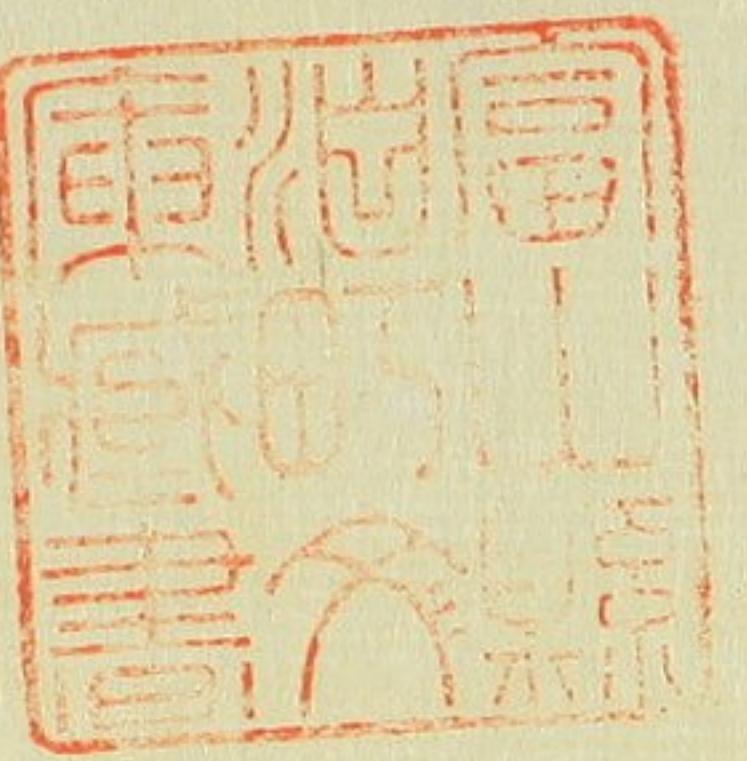
5 6 7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7



首
書
孫氏物語
立柱



三十



河並九巻名今ハトと宿されしもるれ。さうまこと。柱ハヨリと。ヨリ。花以哥寫卷名。源氏二十七歳より。年廿八歳の秋。もてれる。此卷。又堅の筆也。細源氏。廿七の十月。より。世へ。の秋。も。それ。あり。但未。よ。十一月。よ。や。と。お。さ。ら。と。と。そ。く。と。こ。出。放。と。あ。き。ハ。十一月。ま。そ。ア。リ。ア。ル。と。

内。よ。さ。ニ。ク。ま。ん。花。是。ト。リ。ハ。鱗。黒。大。將。と。弁。の。あ。り。と。う。心。も。う。と。そ。ト。す。う。君。よ。通。初。る。す。也。内。侍。の。う。と。成。放。て。い。ま。し。入。内。あ。と。と。る。こ。ま。く。う。れ。わ。き。内。よ。さ。ニ。ク。う。て。ハ。か。と。う。り。し。の。き。れ。が。あ。と。く。べ。よ。と。と。か。く。と。訪。て。内。方。の。べ。く。ハ。ら。ま。ら。す。と。絆。と。也。源。氏。君。と。内。の。大。臣。を。ち。う。ほ。く。ね。す。な。き。ハ。あ。と。ハ。ス。り。の。月。日。と。ハ。物。語。よ。ち。う。と。と。弁。の。あ。り。と。う。て。ハ。あ。ま。き。さ。う。の。う。と。及。物。語。の。妙。处。也。ト。く。く。と。い。く。く。く。

弄源氏之心也

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

内。よ。さ。ニ。ク。ま。ん。心。も。う。と。そ。ト。す。う。君。よ。通。初。る。す。也。内。侍。の。う。と。成。放。て。い。ま。し。入。内。あ。と。と。る。こ。ま。く。う。れ。わ。き。内。よ。さ。ニ。ク。う。て。ハ。か。と。う。り。し。の。き。れ。が。あ。と。く。べ。よ。と。と。か。く。と。訪。て。内。方。の。べ。く。ハ。ら。ま。ら。す。と。絆。と。也。源。氏。君。と。内。の。大。臣。を。ち。う。ほ。く。ね。す。な。き。ハ。あ。と。ハ。ス。り。の。月。日。と。ハ。物。語。よ。ち。う。と。と。弁。の。あ。り。と。う。て。ハ。あ。ま。き。さ。う。の。う。と。及。物。語。の。妙。处。也。ト。く。く。と。い。く。く。く。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

○夫ハ一人よ細世事へひくち。サセト。色公私。の。居。不可然。と。也。

石山の佛 河石山寺在近江國瀬多南聖武天皇
内宇金鷲仙人建立云 花石山の觀音と佛
と云菩薩と佛と云玉の巻みちを終ね
鬚里大將石山觀音玉うたるといひある
うへし
弁のちまとすも 盂 媒の弁と觀音とす
ありて口と也

えまへて花玉うの弁れをとようと
うひがくようてえまへてうるわると
ううり

河多日本紀幾多日

心あきこ人の細河海心あきこ人とハ鬚里と云
といひ放めり是も面白又美ハ鬚里の本基の小方
の物氣となくがほりとも其もくさきせ其
故ハ物のそれちりねり也今玉うたれると祈詣
（ろよハ）やく成就うら也是ハ玉うらハ心浅く
少（す）少利牛も馬やるる時ハ心淺くとが手
とひア此說可然乞

（おもと細此との字）演べ玉うら本意そハ
トシテ小治に。じゆはづてむ
やまのやまけをも。弁のやま
をも。あくまでいとまゆく
おりで。さんあまみのうくね
（ことかが）いとまゆく。え
（まくら）で。うるわふく。ば
（まくら）に。うら。げあつてとど
を。うら。ぐよかう。とくろ
あくせんのこくらふ。さす
石等の佛の驗徳もれかと云也
もあくせんしける。おくじもく
ゆづはる。とおがせど。よ

るまこと地
れぞく 細 實父あとびと語也
引くへ 取扱 ほ氏の心也

河儀式寂無ニ

細 大將の出入れ儀式也 やうのうもほほろく
沙汰ちのう也 浮氏の特殊勝也
（こゝとのみ）細 大將れゆこ也

（おこ） 細 いまと本のか方キミをハ也

（おと） 細 取扱 玉うら大將のうへりのう
りほ氏の心と不合也 本のか方れゆくもほほろく
（おこ） せしゅうと云ふとつをそもぬ此もそ
りてうのう音（おと）ひとひとほ（と）ほ氏の大將へ

古異也。終也。
○うつま 河平 日本紀 杖論語註 場
孟侯氏の祝也。玉うつと孟侯氏の祝方よをさす
さんと也。

○ちあともハ細内大臣乃はすよへうるる宮
仕よりハ大將の内へつむがるとハ可然とおせ
。あまやのとくら花あまハ生也物のあま
さもこのきくとくのハ側也。うつるハト
もすよ心也。もいろハ數奇トシセキをすよ
ミ官仕アリ也。

○かくハ平内大臣玉うつと念ばよとども也
細涯介のかとハとくも(きれい)と女とまき奉
て二方ハいととわいお也。

○よほ門と孟内門とよもと大きのやうか
曲有(う)こと足大臣の室也。巴秋玉うつの行な事

○あらきき 河淡付 直玉うつ同詞也
○三月のよけ 細嫁娶の三日め也。餅その儀式也
巴秋玉氏より大將へ三日夜の祝言うつのキ
と致仕うつて祝着也。

子の地也

此かく 直侯氏の祝也

○うつま 直玉うつと黒との間のうせ

人よおがおう。ようあひにね
よかへこむまうおひして。やくし
くのうすあらねづかわくを
きやうすのあらねづかわくの
東乃はせうとうじゆす
ぬくろくとくとくとくとくとくと
とあくねよくとくとくとくとくと
びゆれあくねよくとくとくとくと
づく人のよくとくとくとくとくと
づくとくとくとくとくとくとくとく

さうとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとく
やとくとくとくとくとくとくとく
やとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとく
うとくとくとくとくとくとくとく
げとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとく

。ありて世より巴掀源氏ハ實父より
貄と致仕し至り候と無隱也そも寄通をき
大将より候をありてよとせよりよ
「うへ」
「うへ」セシモリセ候天子と玉うるとの事也や
ぬすと也

。アヤツ人を細トヒテマサナリトモ時
ときハナリタカトモ
「うをくして花をもくしてハムヘシ」といひ
あらそうよハするもたとくニシ筋とえうや
或候尚侍の官仕スルヨアリ候とモ内門の玉
うみ心をも候とて斟酌とて候はむと
きがきうご物とモ也

霜月ニ河土月神事差事委
花内侍司の中よ尚侍を典侍スレ、掌侍を女端
此四等の官あり霜月スガ女官とも内侍の名の
内とくまつりつゝ有也
奉神事よと内侍のうで不^レとモ已下末て
すとひわくとも也昔ハアリムシキ内侍さ
ゆハモ一禪

正月よりてあてて、うりあす
かじみにむかひづくかく、うじ乃
いじ、うけくとおばどと、手脛
の脇も、わらとお少かのかと
をもくべくもくべよおひらみ
て、うきみゆかねおやりやられ
て、うけくとお少かのかと、お
なうようとうまめへぐの、うべ
いもくアヒトホフアヌミシウ
て、うへくとお少かのかと、お

アラヤムトハ孟 壴の心也まつてハキテ也

。兵来のうへハ細れと玉うる心をくへ大将の
本臺の兄オニまれハくくよロアリヒトモ也

。大將ハ孟 鮎黒ハ實目うるへと名をうる也

。うううく萬水大將ハ好色のうるゝ人されど
その名残うる玉うる故よ行跡とやねり候と也

。女ハヨリモ河和饅細ミヤモ也
。とてクテ細大將ニ付シハ和ニロ反モ
モトクテミキソウニ身をつスル也

心リてアム細玉ヲハ心ナヒ太將ニアヒ筋
也此筋を源氏ハ委ハナシテアム也
筋也初の巻ノ玉ノ筋もアム也
て源氏の筋アム也

。アマハ細玉ヲハ兵部大官ニムヒ也

。シテアム筋アム也アム筋至る
ミトトアレドモトトアガヒシ
シトモヤハムクシテアム筋
アム筋ケアム也アム筋
アム筋モアヒテアム也

物ハコラヒ取扱玉ヲハアム也^{模様}
ホトクサクタキシテ
オトメトイトアノ細筋也アム也^今
モクシテアム也アム也

。わらぞす孟倭人の心也
細もつときアムハ源氏の心也^{テヒ}
アム也

。今ヨリモ平源氏のアム心也^ヒをと今ヨリ
モトヨム也
物のアム也^ハ母膝^ハ時^ハ源氏の玉アム也
アム也^ハアム也^ハアム也^ハ

大將のがせぬ 益ほ氏の玉うなみ也

もくとうきく或紙 健也山氣方ともる也

もくとうきく万水 とよとハ也
河 賢く 駒 やまく心
細 くくこ夏也
或紙 顯く 今ハ外衣じまうひそくあらう
もくとうきくすくもとすく也

もくとうきく花 鮎里の大将れす也
細 比 大將よりひて今ほ氏よひべ別の物よ

えりうし也

あらひの外見 花玉うのとひ心也
巴秋 大將と考りぬひとくううき神也

やうくゑやうくせ抄 友方の下くろ也

歌のとさけ 益ほ氏の玉うなみ也

ううくゑ乃 益 懐姓也

ううくゑ乃 細 懐姓の心也 我のうなみ也
アラヒミホのとく也

。ありまつてす。細氏也。花やうらては、伏せねま
ほ氏君の玉くろよ實事のうとす也。すかうは、
川もてハ我そ引くをもととひへ人の歎
矣。三途川也。弄只川のすん一禪勘定
河ハ三途川也。花鳥後世のすとそ
うりひの外細うを足す一也。

。アラセ河玉くろ也。花地獄の給とぞとさう
アラル川玉くろアラシがもかう何み衣とぞとさう
らん今案此うハ三途川のうとの罪人の衣とぞとさう
既衣翁脱衣婆とぞとあらうありとさう
細此言は、矣わきわと唯とさうトモアラシ也。やう
るの生えうそとぞとさうスハモキナリ也。やう
死期の不本意とぞとさうスハモキナリ也。五文字ハモキナ
リ。アラシの細ほ氏の羽也。誰も三途川ハ必候
リ也。東折三途川ハ死て、海川也。アラシと三途川
をほりそとさうとハ心もさうとそ也。
アラシ河無過路無善道善道中種枝
河委無過路の義と用

かとくらむ
おりもてらひなはなば
人セとくらむを。
おひいのやうふりやととあお
かとくらむしもつてうわれ
ゆりせらふとくうて

。アラセ川御くまによひてた
あくのあくのとおとほらん
えくあくの脚とてしがくろ
さくものせへば、ばまちあく
うとけひのとくとくりがく
たとけきとくやとが多

。手の玉くろ細支婦のうとひくらる人三
途川と引波も也。實事のうとそと支婦のうとひと
ちへせくらひよ引波とかのうと可有と也。琴義
とてあとあーと計そとも可云也。河花同
。おがーちくろも細玉くろもとひくらひくら
至りと心うのす也。
母ようこちもじと弄みのうとちもじと心
うきひも也。又うとやまととハ實事のうと
或折せよう程うと愚癡うとすと又實事の
あるとちもじと玉くろれど玉くろれど玉く
へきれハアリとくも也。
アラシと巴折玉くろのほ氏の羽也
。アラシと細ほ氏の別のうとひくらひくら也
。アラシの玉くろ細ほ氏の羽

。物とアリ。又孟勅のうとハもくらひくら
孟勅黒の秋物と領へてハ也

。アラシの内裏のうとひくらひくら也

。アラシと巴折玉くろのほ氏の羽也
。アラシと細ほ氏の別のうとひくらひくら也
。アラシの玉くろ細ほ氏の羽

。物とアリ。又孟勅のうとハもくらひくら
孟勅黒の秋物と領へてハ也

。アラシの内裏のうとひくらひくら也

おひきをすし 幸内(まつせんの心也)

二条のやまと 細父大臣也 系圖より二条大臣と有
ニシテ大后れ父大臣の事也
或抑源氏ハ官仕もとらひて實父の大臣
大將の事と可然也ひ所ハほども心安らひと
あくねうも 或抑玉うの心也 官仕もと心
もとるからむ心とハ良事也 又大將の事と
一也

かくも多き 或抑源氏の事と有するもの
おはな也
おもへて細心つらひと人を也

○ニユコトア 比抑大將(玉うの事)と有する
も源氏のゆき おはな 云々也

内(まつ) 細大將の心也 豊時も糸内とひまつに
みはら也 尚侍もとハ必殊賀も糸内とひまつに
のうのつきてみ細糸内とハ直は大將の事(可度
はあと) いふこととするすらむる也

おもへて 畏ひ孟ひきうねるのみもと

○年比翁(一) 或抑少芳物の事とひまつに
もうてうるるうねるのみもと

すくねすずさすかのうをうふ。
もとひもとひおうじんとと・やと
つるよとおおおおおおおおおおおおおおお
つるよやうよまうでやとおお
のゆふつまおて・とおあくま
おおがとゆ・とゆ・とゆ・とゆ
おおじくとゆ・とゆ・とゆ
おおおおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお
おおおおおおおおおおおおおお

孟の方ハ見と勝るをひひと鑑
ハもともとひひおへ也

あましよ細大將の子也只實目立つて
うるはれはくよとえどほひにらむ也

りあじよ孟 髪黒のふく血よとくよ
きうれあく也

人の出方水の方の恨かやうと

お君へよ細大將の本墓也取扱親王の墓
おれハ玉くろみをあくひひをひる也

おものかよ孟 常ヨリひひをひて
しよく在氣うつわく也
うつわく也 孟親のひひ也無正也

おもか 河強

おもか 細先帝親王也

おものかよ孟 常ヨリひひをひて
しよく在氣うつわく也
うつわく也 孟親のひひ也無正也

おものかよ孟 常ヨリひひをひて
しよく在氣うつわく也
うつわく也 孟親のひひ也無正也

ためいよこすふ小のひおが
きどくらんかくのひのひおが
あましよ細大將の子也只實目立つて
うるはれはくよとえどほひにらむ也
あましよ孟 髪黒のふく血よとくよ
きうれあく也

。みすらひ花は民君の玉うは君は密事う

。うはは羽はとくともいは清やうは也

。おもよえ或抄草子地也

。大部卿官 盂 や方の文宮也

。今ハ一ツ或被是より或名宮の羽也

。人うやまー何うー也 万葉ま川井

。上よ家へあれと君とやまくわへばせわくま

。古今何ぞてガのひづよ老々人年のみえ

。いとやまくま

。そのわんこく細こくとあん間バレ

。けまといよがあくと云也

。宮の東乃ひと孟式アミのあれと也

。ひうひ或抄掃地うしてそくへと

。あやのひあう 盂 や方の心中也

。今ハえう乃細一度トモトモうて立

。スラムニテ面目うへ也 一ぢ余ハ

。うちくへぬ 盂 や方の心也

。本性ハつて孟 や方の心ア大やうする也から

。羽也心あやまくハ物れきのま也

。おもよえの弄少方のあきよももむち
。きうき也

。むとれりて何理痛

。玉とスルキリ細大將の心也玉とスルキリハ
玉ヲアリ住候方也
。年アリて心ナリ裏候實人の心也
。万水本基アリハ大將も如在ハシカヒ也玉子
ナシモアリモアリハトスヘ

。さのよきより弄ひそうれや方よの筋也
細アリテヤアトシナハシナヒタヒハシテ
モアリミシカのども也

。アリモアリ再換可然ハ堪忍アリて姦姫
トハセラルモ也
。さのよきより細や方の筋アリソシタヒ
カツカえラヒ上手也

。年アリ勢アリ細大將も衰ヒタヒ也
万水連アリアリテモ也
世の人とるる弄物のモヘモ也

。アリモアリ孟年比々アリて物のモモ也
キヒ堪忍サビヒの筋也
。えさヒと巴換アリモアリ有アリモヒ
ナシモ也

。おがくシヒ細此か文字制禁の心ナシ
モヒシヒ人ねきトシヒシヒモロ羽也
。おさなアリベク或候大將の手アリ莫也
ナシモ也

。女のみアリ細其遠慮ヨリ人世のアリ莫也
ヒウムヒヒヒアリシ
。アリモアリアリ巴換心のアリヒナヒアリ
モ見果シテ後アリハ理ヒ也今アリ待て候
アリアリモアリハ恨ヒシリカモアリハシリ
ナシモアリモアリモアリ也

○宮の主に細く 細女をわざと官荷意
あらうる心えふをこむ也

○おが 巴掛 真實も

○花考事也 細堪當也

○よねま細く大將のひひと嘲嘆
のねじりね也
○めうと河召人也 大和物語云此い君
のゆきのいせのとていまとろぞうは
のとくのれうとくとくとくとくとくとく
蜻蛉日記云との宮のあくとくとく
孟てをのやうる人也

○の君中將細木ニ君ハ大ねのゆ方の妻房
中将ハゆ方ニアヘルセいつとすたれねくべ也

○ア心 盂 本性也

○ううと細わ方の刃我身のよハヌスアホ
父宮のゆうをまくのゆゑもとを
弄かさうハガセうるあるの刃也 河毛

○ううと 万水 や方の我心よ宮の名まき
いひとおも也
○ううと 花 うまれる心也

○ううじき 盂わ方也

○やうう 河細と許 草書女と狹
或狭 わ方ノミと草子地う云也

ひくも 河 あー同字也

。いきよ身う最もとくらはくもあむと
。うまうら万水やく風流うるゑ也

。いとあくれあく。とぬふくも
。とくらふくとく。とくふくも

。のくやのくと 細 大将の印

。まのゆくやくやとおもつひ
。じよてくとくとけくわてあ
。うけくとくひくやく小音を
。うそくづくともおもくく
。あずくとくよまつとくらも
。いとあくれあく。とぬふくも
。とくらふくとく。とくふくも

。うへて 戒戒 さきんとうくじう也
。うへいはくあく 益 や方 大將の印と玉を
語 お約也 玉とえくらやうくわくとよ
事也

。うへて 或枚 玉うとこく度 略と
。あわきおとく 益 ほ民のくも也
弄 高位ホのハツモ不及と也

。うへて おとく 益 ほ民のくも也
あくのあくとく おとくハサシテト也

。あくとく うへて うのがひけ
。うへくのひくまがゆくま
。よくあく うへくまがゆくま
。うへく 今がひくまがゆく
。やくらうと かくうとく
。うへく うへく うへく
。うへく ひくまがゆく
。せよたうひくまがゆく
。うへく ひくまがゆく
。よくあく ひくまがゆく
。うへく ひくまがゆく

品中とて 細玉うどむべハの中とてま
一きせじ也

○宮玉うども 又故父宮のうどもうど
とくとくハシメシトテテキタリ也

○人山つアミハ 盟 わ方の逸咎也 病者うど
も似ねやとよ父宮のうど也

○人山つアミハ 盟 わ方の逸咎也 病者うど
も似ねやとよ父宮のうど也

○人山つアミハ 盟 わ方の逸咎也 病者うど
も似ねやとよ父宮のうど也

○ひそうとせん 巴故父宮ふ也

○あとのわ方 細紫上也

○とへるやハ 盟北方と紫上とアミアミハと
○とへるやハ 盟北方と紫上とアミアミハと
母よもとくれておハサヘ也

○未の世よく 花是ハ紫上と官の恨み也 玉

うれ君と大将よわくせひもと紫上也

と宮の心えひて恨み也

○アヌハ 細何とくえよハシメシトテ

○ひそうい細とくえよハ方の絆也
巴故大將よ我カハちせんとよ父宮ふも
おわせくとくとく也

○ひそうい細とくえよハ可然又のりを
あうてハシメシトテ

大よりか方乃 細 大將の約

○はまじよの細壁上ハミシ人のつまじも
めれとて我方とすくまセテやうよ
おきハキトヘの上まそのまハいとくも
おきまく也
○御ひかくさわらく巴被玉うけ牢こして
人の上までと也 盂 銀黒のタマミ壁上乃
おひおきと也 巴被玉うけ牢こして
人乃朝やきく弄大部卿宮と云也
巴被壁上トヤハ宮のゆゑうつみ壁上乃
あとあわせくハやきりこと也
うるるれ 盂 源氏へきてハと也

○えきねば 細 大將玉うの山方へまつは
へこの心也
いと出うんと 盂 玉うへりよすきよ何と
うととんと

○世のちよと細 方のう也

○我もじひ火 河 日本紀オ七日景行天皇十四年
敗有殺王之情放火燒其野王知被欺則以燐炭
而燒而得免 日本武尊東夷と征一時駿河
國にて賊徒野と燒一のみ尊十束劍を草と
おて而燒のわざりし也人のもとへまく
とこあへりし相対して腹立たむ

○うしあと細 格子し夜よひもあま
さうさう

○あやうくさ 盂 小方羽也玉うへりんと
ひねきうととるてうのうのうのうのうのうのう
夜とゆきぬり 河道もういそあん白
雪のゆきおり竹のうとえよき
今ハクナリ 細 を衰せりよひあうごと
えさとめぬ也

○うしあと細 格子し夜よひもあま
さうさう

○あらひとちーう。の山方をも
よしげよあすゞぐもあど
おひとあくとつあそ 我も
おひと火けうてもくもくと
おひとふつとあくとあくと
ろきのいとくろくうとあく
ひふせんとさひまれつぐ
あひとひとくがく。うちく
やすひておひと。お方々
きとく。あやうくうもくとく
よしひひうとすしん。おもえ
やとくうとおふくろうとく

○あらひとちーう。の山方をも
よしげよあすゞぐもあど
おひとあくとつあそ 我も
おひと火けうてもくもくと
おひとふつとあくとあくと
ろきのいとくろくうとあく
ひふせんとさひまれつぐ
あひとひとくがく。うちく
やすひておひと。お方々
きとく。あやうくうもくとく
よしひひうとすしん。おもえ
やとくうとおふくろうとく

○あらひとちーう。の山方をも
よしげよあすゞぐもあど
おひとあくとつあそ 我も
おひと火けうてもくもくと
おひとふつとあくとあくと
ろきのいとくろくうとあく
ひふせんとさひまれつぐ
あひとひとくがく。うちく
やすひておひと。お方々
きとく。あやうくうもくとく
よしひひうとすしん。おもえ
やとくうとおふくろうとく

○ふよ、細大將の、東批玉うへ夜れうとよ
いそ出だくとハのあひから出だくの
事とのね也

○とせうはう東批玉うへ夜れうとよ
おもせうけのうき也やそえくへ渡る
てハ方へしはうとよもほくと玉うへ
の心うれやうとようて夜れうへ女房達
あるくへんと下のし絶めへと云ふへう釣也

○おもくちも孟嶺峯と内大臣也

○うとくとくと東批我心うのゆをとぞも
おもくへちねくとよも

○うとくとくと孟物のきうへちねくと
おもくへちねくとよも

○立と立と細の方の釣
巴批うとくと外みゆかへ無用と

○立と立と東批大將のひくうとよ
立と立と東批大將のひくうとよ
袖の冰を河口へむらくよ御冬のよ
そそく水のよくよくわくよ
おおきりて万水の方のまくうへや
一舟也

○立と立と細の方也

○立と立と或批の方惣別らうとよ
ふよ病裏へゆる姿也
おうて東批の方の物ありくとよ
條の心うへくすね也

○立と立と細の方の、
巴批うとくと外みゆかへ無用と
立と立と東批大將のひくうとよ
立と立と東批大將のひくうとよ
袖の冰を河口へむらくよ御冬のよ
そそく水のよくよくわくよ
おおきりて万水の方のまくうへや
一舟也

○立と立と細の方の、
巴批うとくと外みゆかへ無用と
立と立と東批大將のひくうとよ
立と立と東批大將のひくうとよ
袖の冰を河口へむらくよ御冬のよ
そそく水のよくよくわくよ
おおきりて万水の方のまくうへや
一舟也

○はるか原風の事の事と云ふ
○さうすら或様此の方と名義してお
○とく別へよううひばかりとひひむ
心ハモシト也

○さうゆきと或様立坐して
トシテ也

○さうとみ花涼氏の事也
孟源氏ハ鬚里也

○わく、弄男也

○アヒイイイイ万水供の衆にうるを也

○中将らくもと弄小方の心よもと云う
の物えくとわくし

○よハよ或抄もみのあうら也

○あがうう何ううりのみ下烟ねまとも
我ひとハううとやハ孟ニハ々セ也
細神より入う火取よハす別よ火取
て火取よもとおれをすうひとあり火取
いもひと細火取也

や、えあつ 河微や、花てあつハ見逢也
孟ヤつヒツヤヒミタニセ也
あもろそ 或様 大将也

。ふへそ万水 大將のひせか方れ本性そ
うくふゆくそりアスモカナシモトヒ物
の物ハソウルハチシム不及と也

。ゆきくそくく或様 大將し物のきれま
とくひひく又官英もそうよてせし

。リトコト細玉コのくわと

。ゆきくそくくハ細大將のひせか物のきれま
ヨシヒセ也
。アソクぬ或様 ゆのすそくハヤハム
ヨシヒセ也
。スムラフニ或様 アソクヒセ也

。ゆきくそくくハ或様 玉コのくわと
ヨシヒセ也

。もいのちやせ抜叫也か方物のもの也

。うよがりあひてどりくらうと
。てうらまつとうべ。うじのと
。おふかじがむしらうとおはな

。万水草子れ地也

。ひきてろきこゆくひのへあ也

。弃行者のもともどもす也

。もとくわとも或被物のまよまよ也

。え文万水大将玉うへぬ文也

。えハよ孟文の羽也

。うよがりあひてどりくらうと
。てうらまつとうべ。うじのと
。おふかじがむしらうとおはな

。万水雪とひ独れのひと也

。房心とハ孟玉うへぬかとてかのへ
。とつも也

。うよ河本強孟ウタキの文也

。うよ河本強孟ウタキの文也

。心くう大将也河後撰雪のとくへ日月

。のとくよううきる兼茂朝臣う消てえよ乱
。節淡雪へゆくへる洞也

。花雪もよ、雪催一也檜巻よすけひの独

。そけくへ欠取の灰をアリヒコのよへる
。アリヒコのよへる也弄雪もよ非夜字

。語助也

。げやよ弄實うり也孟うてよ也

。うよ河本強孟ウタキの文也

。うよ河本強孟ウタキの文也

。うよ河本強孟ウタキの文也

心のうちより、孟懿子の心也玉うと云ふ
ナシて小方の無事ニカレーニ也

まことの義姫本心の時とアリハニ也

ウラモト義姫暫時アリハニ也

花氣隠也アリハニ也

細や方ハソノ物のうちヨミは
ナセハ大將の内装束無次第アリハニ
アリハニ也 河海花鳥の本相違アリ

ひつゝ万水 大將の腹立也

トスアハ或姫先夜の直衣ハ火取の火を燒
アリハニ也

クルシバヒシのいもとあおね、即
マツシタハアリトカドモカドモ
アリカドモカドモカドモカドモ
アラカムカムシテのじつり
カドモカドモカドモカドモカドモ
カドモカドモカドモカドモカドモ
カドモカドモカドモカドモカドモ

母とアキ 或姫董のタトヲヌとゆき
トキアリ也 河温老子庭アリハニ也
河海之本アリハニ也

いやとの 巴掛行水不也

ひくめてうきの君也 幸前より董
のタトヲナリハアリ万水小方の大將よどき
て独あく一チヒ胸のうひあまうてかのとと
きうよと本エ君ハアリハニ也

いやとの 細木エ君の羽

河傷 義姫やうろ羽也

○やうのくは 細 大将の心也玉うとアラヨテ
てモ此もとの君うるす物もアリハナホセア
タシヨトシル也
○うもとくへ細 是ハ情うさる事草子の
評也花鳥山方の大取の仄メアレトト情
うもとハの物也ア如何
○うもと大將也孟くゆう烟とハ後悔の
也カ方の評とアラキハト也

○よ外うき或抄ネテの見玉うろ
○うきんヨ河中間りうきもアスニ也佛
の中間うきつ心を細玉うすむかア(ア)リ
アソニ佛の中間うきよアムクシハト也

○夜アリ内或抄一夜アソニ及也玉うの
アソニアリ内或也玉うの

○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也

○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也
○ソヒト巴抄本のあ方ヘ也

○ソヒト巴抄 細玉うれしきの所ア
○ソヒト巴抄 トソヘアキアソア
○ソヒト或抄物をアソヒのちうセ
○ソヒト或抄大将ウカガハアソヒア
○ソヒト孟鬚里のアソヒ有シ也

○女トモト巴抄 二人女子真木柱の姫君也

○中ヒ万水近年六物のアソヒ申テアソヒ

立うる所ニ万水本基室の小方られハあくべも
ナリ也

今ハクニト万水ノリ玉クニヨウムトナ
シハヤカニヤクニトサニテシテシテ

○足宮ニテ細式部御宮也
今ハアリ或拂ニヤウム小方とハシムトナ
シテ出でアハヨ玉クニの方ニ住候ニハ堪度
リテアリ又宮の名也

○おとす孟面目もくとも也

○ひくね河永迅日本紀頼ノミ

俄ニヒリ孟小方と出述也

○ミケニキリ孟安滅也

○而て辛多リ或拂ニ方心也平氣ニキニ
セハセラニ分別一也
人乃ニモソニ細つられてハ拂及スニトナ
ヒ出名スニミト也

○矣事のを或拂玉クニヨウモリテ也

○中將侍從民部太輔并兵衛督の舍才也
向式部卿宮息民部太輔ニ仕セラニトナ
論乞一勘昔ハ如是仕官勿論也
○さてハ万水拂可有ヒハヨテ寛悟リ
トナキミト也

○ひと見よ 益父宮の下と旅りて
わんと也
○ハ細サハト云りて
万水女房アラカミトモテ宮モカ方のカ
ツクルシムヤハシカシカニリヨナテ後エ
マリシテラクユカラシ也

○クモハト或抄女房との道具也

○アラカミトモテ或抄カ方の調度トモセリ
テ渡アラカミハ皆その支度トモセ也

○アラカミ万水マツヘシ也

○アラカミ益カ方の釣也
或抄我身の宿業ハアラカミトモセ也

○アラカミシテアラカミトモテ山住キ
トモセテアラカミトモテ山住キ
アラカミシテアラカミトモセ也

○アラカミシテアラカミトモテ河山城のえアス
のうアラカミシテアラカミトモテ我ガカ
或抄アラカミモテ母君アラカミシテ

○アラカミシテアラカミトモテ弄隣里のアラカミト
アラカミシテ今ア具アリシ也
アラカミシテアラカミトモテひきもんアラカミトモテ往來キ
アラカミシテアラカミトモテ阿久也

○アラカミシテアラカミトモテアラカミトモテ
アラカミシテアラカミトモテアラカミトモテ
アラカミシテアラカミトモテアラカミトモテ
アラカミシテアラカミトモテアラカミトモテ
アラカミシテアラカミトモテアラカミトモセ也

○さとくちあきて おねごとき式部卿の所持と
へようてきと昇進いりやうりんとせ
孟だくらて 領知ひうふどうきをもあれ
てとりうろ本の不用之青表紙みかげでそ
うれでせうとと領ひゆはり方からう方
とす心也

○さうとて山林よ或極か方の道せみと往
よりことうんとつとせ

○皆ねくせんとくとせ

○じう物語 幸住吉物語のう嫡女と父父龜
よわりひくと继母のひよどりてとくま
うすくわせ

うすくわせ

○よまてくみやうそ 幸父子と云承ひうと毛
細や方は母と云承けうてうへてあつふるや
のう乃出来られひやうこうとおがくうりや
の名残うき巴掛 實くら捨うひ名ぶき習也

○アシテ孟大将ハ

○アシテ孟大將ハ

○目とひいお掛はて君達と寄りな
あひのとひて消とのひいはせ
○姫君ハ細大將の愛するようてくま
名残とひいはせ
○アシテハ幸掛父君とまゐるよしはせ
○今と弄又よ今は

○アシテ孟大將ハ

○今おもかく身抄姫君と母君へまつわる也

○今世抄姫君父の玉うらう只今も呼
名もんやと待ち心也

○くそ細日れわきとく美うれりと
そりかねれえとくみるふくも也

○常ニトシ居方水姫君のトリカラゆう柱也

○ひのうの河檜皮色紙紫のひもくを
くつに色也 幸古う柱の色よよす

○今ハトテウ姫君也 河彼柱日本紀横真木柱

六階ちう柱つう松人ひまわら竹うがのじも由アラ

ヤフヌドリカタムヒリバサテ
ヤマトスヘヒリミルヒカツムスリナニ
トキモヘヒリムタキカツムスリナニ
スレモヘヒリムタキカツムスリナニ
シカツムスリナニ

ひてやと身抄母君をうひす

おれきとハシ母君也 益み狂ハ無心也 其無心
なう狂ハといひ只いづくと云心也うの心ハ有
あるハアハアハアハアハアハアト云心也やく
アシハアシハアシハアシハアシハアシハアシハ

○一とあくま万水まくハ心をつまく
本草まくアカミハ名残すう心也

○おとされとう中将也 幸懸と歌ふをう也
或抄石間の水ハリの君はうとくううううう
うの君ハとくうとく本堂ハうとくううう

○もとすすめ主玉君也。或承ありひよじまと
かきてもとすすめとづれきとくの不定の世中
うきハ我をもすすてあくへともとくも

ひてやくそ或承ひてやくせがるゆゑひん

○あまき河君の住宿の梢ビヤシム
くまき河君の住宿の梢ビヤシム
観喬木於古里文選別賦
○君うそじりくハ已故官家のあはりて大
將の家よ心いじるそハソウタマム
名残とよと也

○アヤヌ細れど武乃宮の内入坐號て
のアヌノ一度嫁娶て後の故鄉より帰る

○母や方平紫上の越女也。細ようろくア
まく乃卷よアシテ
○大さおと或承ほのくは是ハ母や方の便
とキアマアラム約也

○あくさ或承桐壺卷も有羽也仍不教
河委
○母や方と花冷泉院女と武部卿宮の内女し其卷
又内や秋母中官ヨドシテ云うと云や

○されば中入細とタの音信ありて。也傳人
よハ恨とぞとせよ。上めゆうとおひなく世説
も有うるのみ也

○もとすすめと細紫上と家しゆりの兄弟を
とくとくと細紫上と家しゆりの兄弟を
列すしていふ物とよ也

うんとくとくとくとくとくとくとくとくとく

しのうくもとくの水をと
ぼとびとくもとくもとくもとくも

ぬととくとくとくとくとくとくとくとくとく

リとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとく

西入等と巴移 遺恨也

木村

西移漢氏のまことにあつひよされとへ世上と
ゆきやうかと有ることせりやくはモトハモト
りてあらひめりとこまもそとゆきやくとハ
實法の難異へ始生上ものちかくとよまし
弄花の心がちれやうおうとハ玉うの年ひ
ゆひとお尺を是可然とぞ

ある三事や或移式乃官の物也

トシル河歎 益漢氏入る也

西入等とハ何不革

のうちでね 委移漢の時分々きのゆき
あるに差別へりておれど也つとひてと
一あくまくとふくしてと

西入等とハ何不革
賀せられぬよし也

トシル河今生面目

トシル河今生面目

のうちでね 委移曲へ往く正路もとと
のうへこむゆきとすくへ

此大の方を 益草子地 何處 日本紀

トシル河今生面目

○うくうう 巴按 王ううの方そ大将ウカセ
ナウトテテ也
アヤーナクシテテ也 或按大將の心也 我と
ねどスケヨヒトテテ也

○うくううハ花少方ハナナキテテ也
ナウシハムトテテ也或按大將の心也 我と
ひてアヨ何ひトテテ也

○うんの君よ 盟玉うう也
細レタとテ宮のナヌリナム也
○うあやー^ア 盟玉ナムトドロ^ア之隕黒羽
片角^ヲモ堪^アムアソナシト語^ル也

○うすー^ア或按 稔

○うの官内或按式ノ官のナムテテ也

○ううナウヤテ万水官^ハ大将^トアシテ也
被^ヒとのナムン^ト也或按ラム音信^ヒと

○柳の下^ヲアリ^シ弄^シ同^ト月^ヲ着^シアリ^シ下^ヲ襲^ス
の危ハ時算^{ヒトシ}アリ^シシ^テ一^ハ名^ハ下^ヲ襲^フ也時算^{ヒトシ}
アリ^シ也或按ハ十月^{アリ}着用^シ也柳^ハ春^冬
ハ柳^ト号^ト其^ハ外^ハ花^ト云^シ同^物也

○青^シしの河青銚指貫大將檢非違使別當^シ
着^シ之弄^シ同^ト唐^の綺^の指貫^{アシ}也綺^ハ此^國ト^モ
織^シ也^トハ^{アシ}や^シう^タ時^可用^シニ勘^シ
風流^の時^用る指貫^也

○アシ^シハ^{アシ}ト^シ細玉鬢^{アシ}シテ^テモ可^シ
アシ^シヤ^{アシ}万水大將^の生^シト^モ王^{アシ}のアシ^シ
アシ^シタ^シ

○アシ^シト^シ細玉鬢^{アシ}シテ^テモ可^シ
アシ^シヤ^{アシ}万水大將^の生^シト^モ王^{アシ}のアシ^シ
アシ^シタ^シ

○アシ^シト^シ細玉鬢^{アシ}シテ^テモ可^シ
アシ^シヤ^{アシ}万水大將^の生^シト^モ王^{アシ}のアシ^シ
アシ^シタ^シ

。まろうのよ孟文官は恨みをもつてゆく
もとをもつて我不_トアレ也

。あく細男_ト一也さう柱のあを
アシナクヘ

。そとせのへよ孟大将河也ゆ方の物ハ氣と
スミテわく_トの不_トもあら
ヘシメセ

。そやひのそ孟大將_ト我_ハいざとよし

。おまえ_ト孟_ト方_ト一不_ト住_トひしも

。すく_トやよ_トよかく_トもがく_ト
カのよ_トめどりでよしめん_トも
あく_トきみ_トめお_トく_トの_トめ
さく_トご_トがく_トく_トみ_トぎみ_トれ
すく_トあく_トあく_トあく_トの_トめ
よ_トいと_トお_トく_トいと_トく_トた_トを
も_トとく_トう_トの_トく_トの_トく_トを
と_トん_トう_トお_トす_トう_トお_トす_トを
お_トひ_トの_トま_トか_トん_トで_トも_トも_トを
お_トひ_トの_トま_トか_トん_トで_トも_トも_トを
よ_トいと_トお_トく_トいと_トく_トた_トを

。おまえ_トお_トれ_トお_トめ_ト君_トの_トう_トれ_ト也

。あら_ト孟_ト方_ト一不_ト住_トひしも

。おまえ_トお_トれ_トお_トめ_ト君_トの_トう_トれ_ト也

。何_ト時_ト花_ト是_ト孟_ト宮_トの_ト河_ト也

。細_ト大將_トの_ト心_ト今_トよ_トそも_トも_ト也_ト年_トう
お_トれ_トお_トれ_トお_トめ_ト君_トの_トう_トれ_ト也_トお_トれ_ト也_トお_トれ_ト也_ト

。お_トれ_トお_トれ_トお_トめ_ト君_トの_トう_トれ_ト也_トお_トれ_ト也_トお_トれ_ト也_ト

○アラハハサウエー芳の父母ナリモ也

○アラハハサウエー花是ハ齋里大將の子也

○アラハハサウエー孟子達の子也

○アラハハサウエー細心アリトカワセ也

○アラハハサウエー或極いうやとひて一誇ナリ
○今ハア細今ちと堪えやうてのをもども
後一子をもて大將のどうとこうねやう落定
ちがてへりともうせそ進退とそあがく
へきすと也

アラハハサウエーもやうもあ。今ハア細今
ゆんじゆうてつまうて。あ
セアモモヒトカセテシ。や
モモカセアイジヤカガモ。ゆう
アラハハサウエーもやうもあ。今ハア細今
ゆんじゆうてつまうて。あ
セアモモヒトカセテシ。や
モモカセアイジヤカガモ。ゆう

○ナラハ殿上孟童殿上
花後又藤中納言トシナヘ也

○アラハ花後又左大弁トナヘ

○姫君ニモ孟八又アラ君、妹君ニ似テヤムニ
シテアラアシニモトモ也
○アラハ何吾子日本紀我子阿子

○アラハ已故式アラ宮ヘレルサクシカリ也

○おういゆ或被風かうて山類性のやうて
あひぬ也

○せさんち 卍 一本せさんち

○六条のまハ義六条院セ玉うのまハえまう
ひぬ也
○うとうよ義抄大將の下まゆらへと大將の邊

○せ君乃 細玉うせ

○ひくくし 盂 小方のす

○うつとくもあ或抄 姫君若君あみゆ
わぬひとくまじと
○くくまく一 盂式ノ官の大將よくま
くわへひぬひようてんばうこうつをも
とさひてあく無音也

○春乃上也 細巒上也

○おの君 盂 ほ氏也

○くくまく也 花 難儀うるく云ひ也

○とひひしう細 實父まきせうれ也

○うつとくもあ或抄 内門とほ氏のちうもとく
ふくくとひうくと也
○兵乃官乃と 盂 金うとくおうれとも

やアのわくくうきハと也

○うつとくもあ或抄 内門とほ氏のちうもとく
ふくくとひうくと也
○兵乃官乃と 盂 金うとくおうれとも

やアのわくくうきハと也

○うつとくもあ或抄 玉うのまハえまう
ひぬ也
○うとうよ義抄大將の下まゆらへと大將の邊

○せ君乃 細玉うせ

○ひくくし 盂 小方のす

えん一 河 忽

。とおけり 細 真實をもてばハナスハシ

。とおけり

。とおけり 細 花無禮也

。とおけり

。とおけり 細 内侍の如くひよま

。とおけり

。とおけり 細 内侍の如くひよま

。とおけり

。とおけり 花無禮也
巴秋 内裏も大將の妨と無礼と思召也

。とおけり 大やと 河 重磨女尚侍右大臣豊成室尚侍
洙子中納言長良女右大臣氏宗室
孟肯と名の例ゆて大やとへとぞとぞと
ろと思案してすハとの間ハ可被承と也

。とおけり

。とおけり

。とおけり

。とおけり 細 踏寄と見物つゝ也

。とおけり 花西官批云尚侍新任之後詣縫殿陣令奏慶賀
由 諸司陣邊立罷奉陪せ下仕候取
相副女官來燭給錄廿裝束一袋入散繪草中官服者
付内侍令啓慶賀ヲ有贈物今案内侍皆の慶也ハ此
の陣もて手て内侍一人合て其由と奏聞し
ハ則女房の装束とおりて退出する所也此物語の
玉うべ君へやそ内住ちぬへとてそよやそさん
と出房ふもとるトアセト

。とおけり

。とおけり

。とおけり

。とおけり 細 柏木うも

○承香殿の弄 紫宸殿のうつよに壽殿うづ
しゆえ承香殿ゆ

○う官の女也秋式の女の女承香殿の
内と東西のうちへし毬里の妹の女承香殿
よかひうにうづよか出おはもうるや
の心のうちハ孟女也と玉うとの間也とくの間
るきと中もうまれ、うろよまとくしづんと
細草子地ぎがうていう

○う官の女也秋式の女の女承香殿の
中官女也とくううううとく也

○中宮こまてん細中官、秋好こまてん内大臣の女
此アやの女ハ式ア宮の内女承香殿のうよ住む
せけ也

○左の大と細行葉卷うづ左大臣紅梅卷の時分主
中納言宰相 盟誰ともうり或被出文更
てわづく也

衣うき乞

○くみ里人万水女也更衣の内里くづく皆見物
よまうり也

○袖うちの或掛スとの袖口也

○春宮の女也弄東宮のうづくも共
母女わろ時よわいのわい心也毬里の妹春宮の
母儀の女也花やよハかわら也

○おもへ孟山あとハ主上也

○くづく弄省うづくも細省略也
孟男路哥ゆづひまうり也
朱雀院うづ或掛踏哥のまつる次才有とく
禁中中官院春官也

うづくもあく、こくもくとく
ひとわづりぐりぞくづく
けり。うづくは、くづくとくとく金
きぬとよだり、ひくじにひく
じ。これゆきとくをほづく
ぐらりとくあく、こくもくとく
かくかくおで、やまくとく
うづくもどとくとくとく
ひとけふくとく朱雀院とく
院よにうづびばとくとくとく
さくよ。朱雀院うづくとくとく

うづくもあく、こくもくとく
ひとわづりぐりぞくづく
けり。うづくは、くづくとくとく金
きぬとよだり、ひくじにひく
じ。これゆきとくをほづく
ぐらりとくあく、こくもくとく
かくかくおで、やまくとく
うづくもどとくとくとく
ひとけふくとく朱雀院とく
院よにうづびばとくとくとく
さくよ。朱雀院うづくとくとく

○竹川すひて或被踏きゆふとす也註先

○ヨリハキタハ島君花致仕のやうれ季也母ハ祖木
ニモトキサ也ハ番内也
○じくひソ弄當腹也當時家主也本臺の
大將より太島君花醫里大將の嫡子母ハ義父の
官代山田上野十河君也男君達といふ也
○立身いふる孟かきりやく也
○うそくとくらぬくのハ細うども玉うのを
人よわくとも

○此玉うの細玉うの局也

○からう物の色あい或被玉うの局の山簾也
袖口也出しきなれど也

○あくハモイ細玉うの山簾也
ササ内住してあくまどねうく足也
○あくと 河如

○ヨリのまも或被踏哥のうど物の綿也前も註
玉うのうに可然也踏哥推氣はり弄委
水じまや或被前も
○ヨリのまも或被踏哥のうど物の綿也前も註
玉うのうに可然也踏哥推氣はり弄委
水じまや或被前も

○ヨリのまも或被玉うの方、水驛うのまも
ヨリのまも或被玉うの許可然也

○とがくぎくひあれおへ山も
かくちもうちの山くびの袖くら
このひくひの袖くらうが
あくうつあひのめりかく
わくうふくあやうめり
もあくもじりやうふくうを
やうてきくひすとくの袖くら
もあくうどくとくとくけよ
このひくひの袖くらうかく
あくうひの袖くらうめり
やうふくめりけくひの袖くら
くらうひの袖くらうめり

○とがくぎくひあれおへ山も
かくちもうちの山くびの袖くら
このひくひの袖くらうが
あくうつあひのめりかく
わくうふくあやうめり
もあくもじりやうふくうを
やうてきくひすとくの袖くら
もあくうどくとくとくけよ
このひくひの袖くらうかく
あくうひの袖くらうめり
やうふくめりけくひの袖くら
くらうひの袖くらうめり

。とおの本よ 細大將の直盧也

。おおうよを万水玉うととくよ大將の
殿へよとすくと
。おつせと孟尚侍といき内裏よとくら
ハと大將のさつひとく故也

。おうりと龜玉うへと故也

。まうねんくと細あうとうゆ送とくとよ也
。やくろ也承源氏の山異見の旨とよせまれくの
入内されハ天子の心もゆきてゆ退出されとよせ
とくやくろしハあまう早速うんとせ房れのと
おゆうや或承天子との満足をくせ也

。あがじととせわすとゆどがき
。けいきくゆんぐがおとごのふ
。あくくもれにやどきで。われ
。けはまうさればがくろゆるお
。うぐゆうきねうを。せうでを

。よとしと 巴承 大將のひ也
。おはうすと一承 永ひめ退出とよとくのと
。おふみ、河井つとじいのくわうてと
。みのくわうせき

。おれへあまうて 細兵部郎官文とまつせぬ也
。大將ハづくろ 直在右衛府曹司直盧也大將
。ノアのあつぶとう入とせ 河委
。おれとうそ 直大將の文ねやううて兵部官よ
。アの文と玉うとまつせぬ也

。おづよアを

又山本ニテ金也河又山木ハ臥輪の大將とて
とくち也紅葉賀と頭中將と源氏中將も立テ
て花の傍スの又山本とトテ玉クの内侍脣よりス
て又山本と兵アヤ宮の子ねきくら也
弄大將の實法ス旅ス又山本とトテ
巴被大將の唐名大樹とトテ玉クの内侍脣よりス
コヘテヒト花我をナシトテキス共に之
をきめテ

エニテ細此處スと思業立所スアリエ
セホリセウニタタタタタタタタタタ
の高ス生出れト真木柱卷スアリエ
又例有乞一各ヲシの所方スを行業うう内侍の
矣也公卿殿上人女房スト供スモリサセ今スの世
ミキトミ内侍の高スアリエ
〇あゆみの山中スシ河スヒトハ人の姿スト
え也あすうち物ストキルシミモロヘスト日暮
又秋勢ストキスミモロヘストタカツツの心を
エミカラリ巴被源氏のアキタハナシスト
シテ
〇うの山中スハ細のみとハ源氏也トアハヤア
トトメヌチナリミトモミトロヒトモヒトモ
〇ミキハシモトハ或被内門ハ源氏のやまゆま
ミキヒイハシ

ミヤシカアツシキナタナリシテ
ミヤシカアツシキナタナリシテ

又アリトニ細官つゝアホハ引タテ大將
ヌシヒシタタトシミのひハシモセ也
或被もウシニハシモセ也

エリ
細勅定也

〇うひなとも花内侍の慶賀の事也

品を細玉スのことを也またもアカサハサ
アリトム久アドナレテ有スト只今も
おううそと一ぞ見くせ

シモトテシテ内門也河先ストアモトのとつ
ネのやうのちまくアシトヤトシ下略

キシテヒツヒツヒツヒツヒツヒツヒツ

花縫殿寮式云深紫綾一疋紫草也竹灰二石
鳥一疋紫草世介灰一石八斗今案紫ハアケト
染物也さそいあひてことづ
細とくさ草うといそくも也紫ハ灰と合せわ
うり下心ハ三位又叙一筋どり也
孟三位又されハ紫とゆう也
アヒテ弄治氏玉上のすし詮みを
玉うのむかでアレとおもててわづ下也

アヤツヘ乃細サされ詮と草草地す也
河從三位加階

ハムニキ花三位よりハ紫の色と用る也よ加階
のヲとくううくし或極内門ハ心ありても
三位又叙マレツクらうくみ何れ分別も
ト也玉うのゆう也
今トテウニ細而後ノト一假と奉公もよき

の今トテ 細 勅定也

ハムニキ細サトミテアヒテアヒテ
きと也或被恨とまつておれとのゆくが
タれは批判とまでて理非とまつめひもと

ハムニキ孟内門の恨々と玉うの心也
おもてきとも或被情うこひてアヒテ
の人のをじつこと源氏よう御く也

ハムニキ孟玉うれくとてかひきひ
やんとハ細サトミトおがとも
大将ハく孟内門の心のとまつて大將の恐怖

ハムニキハ細退生のとつまつて
或被惑也 已故俗語 惑ハエリと云心也

ハムニキハ細退生のとつまつて
やんとハ細サトミトおがとも
大将ハく孟内門の心のとまつて大將の恐怖

ハムニキハ細退生のとつまつて
やんとハ細サトミトおがとも
大将ハく孟内門の心のとまつて大將の恐怖

○乃ろと河或云允娶官人爲妻者密隱私
舍不肯出仕者依法科罪
細此へゆつて身も時宜よろひてば也
弃玉うの心とぞゆ

○らかと細内大臣也
或拟内大臣ういとゆとぞゆ

○ナハ物う細勅定孟天子の心也唯今
まううとく大將のうてば也

○トトモ一法是トウ而列

○じうの河後撰大納言因經の家ゆけきす平
負父にあててひひ行て行未ちて安アキヒササ

俄は贈太政大臣よじくわてうらはれ。されば文正
あともうくわくはれ。さればみせの五う
さうく本院の西村よあくひわくさきとひうをゆ
ふるをまれそひふよこつきけきる平負父
昔サア我ひとめうくはよおうしようくと
ほくーううそ誰考りえ定き。夢うふまく
アミヒハ
○ミニアウーうと孟門の心也きくはひう
トクもての外もくち也まくう食うと
ともかくしてくはむとぞ也

○おれヒリタマス。万水内侍よゆ心のうとく
きくはくと内侍とくきぬ心也

○我ハヨシヒ。弃出門の心とく
或承或承引か。返す我ハヨシヒ。せのうたる
うきてつて玉うの心へし
○ひて車弃玉うの尚侍退出乃筆也

○三きの細 淳氏内大臣也

詩新註

○ちとまく 河近衛大将さればとてかくせ
きとれいと真うり 盟 近衛と云ひて天子のま
えりゆゑも是はじつと玉うね退出の
砂輦ととくとて山門の門へとくく也
元重と云 山門の山門也 細只今退出わざと
雲上山山よ可思と也
或被 震と大將よ比へて香ハラヌサの空

よ

○のうすとて 盟 異式アリ批判

○野とくへ 河春のみとあつてと
我を野とくへひ一夜ねよ
花野をくへこわいつへきととととととと
あはくへらぐとハ大將の心と云也いそとくか

○さとおりやじハ山門の山門今とうハいそと
ゆくとありやじとくられハ尚侍の下を
くとらひけく也
○さとおらそ河ガとつあハあと裏とおがくつ
ミとよつてとくん

○うへす玉うね細香ハラヌサとととと
きはくとめいとくとくふり吹くわく也
或被 震と山門の山門へ卑下也

○のよよ 目 大ねの亭也

○のひハ 目 山門の還葉也
もやりて山門の山門案内へとくまく
もやりて俄よやうへとくとくと玉うね
直と大ねの亭へ慶一絃也

○だくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

○のうへす玉うね細香ハラヌサとととと
きはくとめいとくとくふり吹くわく也
或被 震と山門の山門へ卑下也

○のうへす玉うね細香ハラヌサとととと
きはくとめいとくとくふり吹くわく也
或被 震と山門の山門へ卑下也

○のうへす玉うね細香ハラヌサとととと
きはくとめいとくとくふり吹くわく也
或被 震と山門の山門へ卑下也

詩新註

。おうよ或折大やよ也大さよひりうて
。ちやく花致仕の大臣也
。万水只今ヨリ始てぬるれ、時宜も
さやうれとそぞよのぬハ多うるやう
をとハ大將も心とてハととととと
内府ハのぬとみ也

。おうよ河不進退
。六条のそ孟庶民ハ不意よ呑也
。かくハ或妙今まくの御事とて
。塔やくさづの河ゆみと云也
。まえのわまでのいやす烟がりとてゆふ

。おととと花玉うの君はよらむや
。あれと大將君ハ益てよらひとてひら
。あらわしと也
。みへなきせ花ゆのゆも也
。或折玉うの房よゆ門の入のをせひもと腹立
。しきくらめく

。ゆつやく巴折隣里の怨を玉うねゆも
。をとく也
。うとく、巴折平へゆのやうふくよ
。玉うねくもんわくも也
。おととと花式宮のゆも也
。或折式宮のゆもく大將とゆくゆとゆく
。れも其後大將の音信ゆくひらひ信ひ
。おととと玉うね大將のゆとれ

大ものハ万水是ハ源氏の心也大將の玉もと
ひく折りと急度のやうハの所とて我より
まもとまへぬれてゆふるを

よあられ細きもんりを

よそせあと或被宿縁ハまとうもとれ
かようもそのう多き所也

ようわきり孟侯氏の我ほりと

ようわきり細太将ハまとうそ和へる
くわらひ也

ようわきり巴秋和きとうそとのやうと
念へゆきとらひみてひ文ちう所也
ゑひうねて孟侯氏の肩ハ源氏の肩
せひう物とおやり出走也

ようわきり巴秋和きとうそとのやうと
念へゆきとらひみてひ文ちう所也
ゑひうねて孟侯氏の肩ハ源氏の肩
せひう物とおやり出走也

ようわきり孟古里へとハ源氏の我ほりと
てせせつもとハ玉うれがかりり出走也
右近とて五うへつう也
巴秋スやアソスやアソスの心とまやの

ようわきり孟古里へとハ源氏の我ほりと
てせせつもとハ玉うれがかりり出走也
右近とて五うへつう也
巴秋スやアソスやアソスの心とまやの

どうぞすすめのやうもとれ
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也
あわらひとくわらひとくわらひとく
かうみはくさうひあらき所也
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也
どうぞすすめのやうもとれ
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也
うひうねりひあらき所也
かうみはくさうひあらき所也

もとやく心をうへし

いそよかの細りうらはんとを

よまよ孟大將の留守よアセまくセ

いそよ孟實父そまかハ翁アソシ
モレハれねモセ

時ひつゝ孟玉うのせは氏のひとを
はへす也

この人を細右近也

右近ハ孟の儀伴ヒアマシ

ひるきうそ右近實否とうそ也
或被通氏のさうしあう、我物もあらまを
さうしてへよかう所をもとゆくとひめいり
あうすと不審もそ
あがつうく或被處遇するもとを

ふるうそうす玉う也 河未ウタカタ 芳仙寓
万葉もれすようじうの年ううもく一年
とくつうも引うれ多有駒之河委
細うの家えく也河海よりうつも唯
暫時のゆ也 巴被女も通氏と云ふと云うれ
がとうはハ河君とそがのゆそのひだに
スハうすうれ草を生む
やく 河泰尚書そまよ也

玉水乃河をみおの玉水をもとぞうと
すれまうもふうとやあせしとじる秉

やれハ山もひひのよめりつ
くりて、言をひわのくにあり。
右近
ひめうけももんとばまよふ
えぐくらひけもくうすよゆ
くづくもれどおがくふくやく
もく

あくもんすおの年下ふ地で
うくもんとゆがくもくやく
うくもくじよとくもくもく
もくもくもくがくもくもく

あくもくもくがくもくもく

の二をきとあともおけらうとく
細引の京とゆきうれはるゝとくとく

○すすかりくろ花 晴月夜のすすむりれす也
玉うのすすハ今すすわくろ物思うる也
○とうもとを或挾せのすすみん也
○もひろへ孟源氏のすすやすすくろし
或挾ぬ色とくろぐ人の物見ハ皆ひくろくも
今ひるか細自今已後ハ何事すすむる也
ヘテと也
○すとくろ或挾玉うハ似合ぬひのまよ
ひとそくたぬとむらひのまよだる也
○さきよし細とひきよし也

○すすかりくろし 盂玉うハ琴と引ぬひと
ほひのまよひのまよ也

○あまのちと弄和琴五拍子ふはすすに三拍子
ふはすすこかく云うかく
○玉もひくろそ 河といたるもくくわくくろ
池のや玉と、まひあくろそかひととくや、まひあくろ
そや 風俗上野哥細岐アねとく出くろ不審也
心あくしほハ唯テ引くらて又可達心と合う乞
後漢杜詩傳恃肺和睦士卒患藻註言歡悅観
戯水藻とくせ心う（十三）弄玉とのうち時
えんわう乞玉うとくつ時也うれすのまよあう
其故乞

内をも挾め門を玉うとよとれひなせ

○あくじれひご 河万葉立てらひのくとくとく
ひこじれわくとれひごひく姿を
細退出のとくとくとれひがる也

○さきよし 挾挾草子地

○おゆくハ孟 布曳う玉うへ也
或挾是ハ山門うり玉うへのい文也
○がとうさゆは或挾玉うれ心也 大將わいひ

川あくじれひご 河萬葉立てらひのくとくとく
ひこじれわくとれひごひく姿を
細退出のとくとくとれひがる也

○さきよし 挾挾草子地

○あくじれひご 河萬葉立てらひのくとくとく
ひこじれわくとれひごひく姿を
細退出のとくとくとれひがる也

○さきよし 挾挾草子地

○あくじれひご 河萬葉立てらひのくとくとく
ひこじれわくとれひごひく姿を
細退出のとくとくとれひがる也

○さきよし 挾挾草子地

○やうのまよひと或妙門の古文書もあら
まくとてあらへる所である也

○とみ細ほ氏也 美ほ氏の所と云

○とくよつとそ或妙源氏のとくらみもす
くはうとてあらへる所又實ふのとくらみ
うううとくらみのとそかよどひおせ

○まうアスルヒカリ或妙玉うのとそま
玉うと山吹うとくらうとそかよ

○春のまえ 盆巣上のとせ

○こうふううて細子の附(まづ)はせ

○さきかまう 盆巣の咲くまう神也
或妙山吹うと下れすよアセ

○色よ衣と河六布くちうけ色よ衣とくめり
いそ心よ物とそくへ百葉うとくう色よ衣
盛られと花のうへ世よ夢うとくよ細子と
えも山吹の色よ衣と深てとこあ此奇異
おはまふすほ氏也何夏葉山吹と宿みてばた
とくらひ花まことひそまざれ後松道わらう
只そやきつとと徳やかの山吹花玉うと
山吹よとくらる河委 盆巣の外よとくらう
かくわくわくとくらる後松道わらう
○うううう花玉うとくらるてやーくせ
巴被玉うと宮仕事も半てとくらるてやーくせ
とうてとくらるてとくらるてとくらるて
鳥うきよやーくハ草子地也

○うれ子の河鷗子西宮記獻鷗子事多有之う
のまともひうが物語云きて宮とまねての宰相
只そそくのうらみ金くらうくねハ君を宿
うくらうくねハ君を宿

○よりとくとくとくとくとくとくとくとくとく
いとゆとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のわじて

○やまくわやでの岸まうとくとく
いとゆとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のわじて

○かくわくとくとくとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のわじて

○かくわくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のわじて

○おまくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のわじて

平上略 鴨の子とうな子と云ひ如何一物。うう五音
通せり無ニ細毛の子とうな子といふ也。
うんへくら花 孟杵子のやうみとくもす
もて也 巴枚鴨の子と似せし出着は成物也
うかの物語よ例あり也
もくとうそ孟ほ氏の文よとくあれまくハ
くさぬもん也
あひくま 細文の刊
もくとう 東枚玉ううれ無音とぞひろ
外とうそ絵也

おひとうよ 巴枚大将のまつりよせられ也

おうきよ平 うな乗みえやくもす
細さきくらうせ
万水 手引まろとハ領へうな也ほ氏のす也

おうきよ花コト契へうなひうも
心やうなとくわせ
或枚何とそあう無音とくわせ
おうきよ花や乃花詩云女子有行遠毎見
東とくは細實文えせはうなとくわせ
大將の實法れ心ようつづのむ也
けうわひうつよのはわれ
じゆゆきばとくわせ
てハ前西のくわんとくわ
らいあくわんがおうわせ
おあくわんがくわん
ねくわんくわんくわん

おうきよ孟ほ氏のあくわんのむと
くわん也
おうきよ或枚大將の腹立也
孟大將の腹立とそうれもくと
くわん也
おうきよ巴枚玉うのうこくとく
のむハ大將のうくわんとくわん
のむハ大將のうくわんとくわん
くわんとくわんとくわんとくわん

おうきよ孟ほ氏のあくわんのむと
くわん也
おうきよ或枚大將の腹立也
孟大將の腹立とそうれもくと
くわん也
おうきよ巴枚玉うのうこくとく
のむハ大將のうくわんとくわん
のむハ大將のうくわんとくわん
くわんとくわんとくわん

。のまくとてあ平手をまろとえしとて
。ひらうてそとあれとよめり大將の玉う
。みうつて返へうとすはほうとて
。あうとてたうのまくとて細こよしほ氏のま
。へをまくせちむねとやうとらう
。巴秋玉うの代れあられハ卑下也
。おもとハモツキ也
。巴秋玉うの代れあられハ卑下也
。おもとハモツキ也
。大將乃或秋大將の文とぞみてほ氏のま
。多くのまくれあ文とハモツキ也

。くらし 益領へ方也

。がせられて河貞文日記云々まわすま
。わきぐる物うき又云み文アヘトハモト
。状をうやうやまわりきまれハモト
。弄きくばくううう也 益か方の神をとを也

。益大將の玉うつあうひはうすと
。えと万水大將の玉うつあうひはうすと
。えとえととくれめくも也
。ひの君と細 真本柱の君也
。益大將の一辰と慶子とてこいへうひは
。一而アセセシム也
。の君乃くもくらぬ也
。おとく君とくもくらぬ也
。益男子へ玉う(集序)

。一ノ内御生て良樹二のつをとよ玉うめ
と真木在姫君ようじゆせ

。一ノやまくす 弄ま本在の君れ心也
やまくすも或被男子らのやまくま我タマウ
もやまくひゆ也

。あやー 細草子地也

。一ノ年乃土月よ 弄源氏廿八歳の土月也玉
うる龜里の男子誕生のタニ又まの日よ秋咲々
のタナリ十一月けりとまくらうへるハシタ乞
或被出巻ハ十一月までのタニとまくまの日よ秋の
タナリハ例の横よまくま葉法也

。一ノかの孟 不及書ミ草子地

。一ノおととし 弄内府のゆ也
おととす孟内府も満足ーぬ也

。一ノとくとく 細玉うるハ内大臣ひまくじ
けり此にき殿きみとをまくはまくと
ひまくねを 或被柏木也

。一ノとくとく 花六条院のゆへられハクヒ有
心也 或被好色どりーがくらひあされ
ハクヒとくとく万水ひまくのゆよ大将(玉
うるのゆうハ無曲との心也
アキツヒ 細今男子とうとくひまくと官仕
き、官とくとくをひくき物とく

アキモトトコトの孟内門よすれふとくつ

モモシセ

アキモトトコト或夢アキモトトモセ

アヤシヒハ花内侍のうみ内臍ヨツシラヌ

クウモチアヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒヒ

アキモトアキモト細名アキモト有アキモト

草子地セ

内侍のえひ孟近江君のうきとう

狂言スリセ

アキモトの万水アキモトアキモト

色アキモト巴被好色心セ

アキモトアキモト直供弘徽殿の心セ孟近江君

トモセ也

アキモト今ハ直供孟の方の官夫人無用と身荷

の制アキモトモアキモト也

アキモトアキモト万水何アキモト云心セ

アキモト東抄弘徽殿の心アキモトサガハミア

立アキモト横アキモト也

アキモト宰相中将細々霧也

アキモト細平生の實法アキモト

○此近江君 盟是も人ろそくより也

○此近江君 真喜也 盟賞龍也

○あるこそや或秋也房うちれりひもくうて
引ひきとよひきみぬ也

○もうかわハ巴秋 張居のひも

○あゆきまや 河無奥 弁浅事也

○出せよめうれな細夕霧也 万水近江君河

○こゝとく孟 わきとやくと云也夕霧とさ
して近江君河也

○ふへと 或秋夕霧はすとトタクをきる也

のゆえとべぐかく びづくだ
くわくとよりとかづくよニ乃
あきのみぐのまうとく
ひてあわむすあかくとくや。六
あうとひづくまつて、いとせ
なげよまくまく。ちうあわれど
よづくとくと。あうあきとくや
のゆひ出んとづくつすぶ。あよ
あらわねまむく。くわくわ。うき
がくくとくと。さくらにさくと
しらすとくと。じくとくと
さくすとくと。じくとくと

○ゆう舟方 近江君也 河ひくめうかやうつて
やうて我みよへよああつてあ
巴秋夕霧の雲井庵と心よハとハ我よされと
そく入さかうてうくと
○ちく一 小舟河古今 ひく江うすき一 小舟ニ
くおうくへよや ひく江うく
あるくや 巴秋夕霧の心と云也 雲井庵の不叶
とちせてとハリトコトアシ一 千日うや風景
孟 むるりよと卑下也

○舟方スハ細夕霧の心也 此其船の舟方スハ用意
きよんハわうき一 物と云そハ舟三度及び一 近江
君よくへと推一 佐也

○うへと云細夕霧の邊へと舟へ近江君
と云也 らくねこへとうる、うきのとく
うけくら也
孟 うせのさハと舟をとくよとされま
よ節余よハいと云心也

○うへと云細夕霧の邊へと舟へ近江君
と云也 らくねこへとうる、うきのとく
うけくら也
孟 うせのさハと舟をとくよとされま
よ節余よハいと云心也

